市民の声（9 月分）

意見 11	H28.9.2 　まず、私のお話が『市民の声』として正しくない内容でしたら、回答の必要はありません。幼稚なお話だとしたらお許しください。 　我が家には三人の子供がおります。 　長男が今年、木更津市にある私立小学校に入学致しました。 　袖ケ浦市は子供を育てるのに適した素敵な街だと思っております。 　ただ、市立の小学校に入学すると一部では中学までの九年間友達が変わらないと言うこともありますよね。 　また、都内や神奈川県と違い、近くに私立の中学や高校、大学等も全然ありません。選ぶことができません！選択肢がありません！ 　わざわざ通いにいかなければならないのも事実です。 　せっかくアクアラインもあるし、バスターミナルや新しい駅舎もある。また、こんな素敵な街でもある！ 　もっと子供たちが選択できるように、学校など誘致したりはできないのでしょうか？ 保育園も当然必要ですが、その先の子供たちのために教育施設を増やし充実させることは出来ないのでしょうか？
回答	H28.9.28　担当課　企画課 　この度、＊＊様からご提言いただきました内容についてお答えいたします。 　学校教育施設を増やして充実させるために、学校などを誘致できないかとのことでございますが、学校（法人）については、どの学校におきましても単一の自治体（住民）を対象にした学校経営は成り立たないことから、広域的な住民、場合によっては全国的な視野で生徒の募集をしております。 　したがいまして、人口６万２千人の規模の本市におきましては、私立の学校はございませんが、近隣市の木更津市や市原市、千葉市まで見た場合、小・中・高等学校や短期大学、４年制の大学など、私立・公立問わず数多く立地しております。 　確かに大学や専門学校などが地域に立地した場合、進学先の選択肢が増えるだけではなく、若い人が集い、街が活性化されるという効果なども見込まれるなど、非常に有益な施策の一つであると考えられます。 　しかし、日本全体が人口減少や急速な少子高齢化社会を迎える中、本市における将来の人口推計を見ましても、現段階では微増という傾向が続いておりますが、１５歳以下の年少人口においては、既に減少が始まっており、近い将来には緩やかな人口減少の局面を迎えるものと推計されております。 　このような状況でございますので、大学や専門学校を始めとした教育機関の需要についても、さらに減少していくものと考えられます。 　また、市が積極的に私立の学校を誘致する場合には、多くの場合、土地の無償貸付けや建設費の助成など、多額の費用が必要となります。例を挙げて申し上げますと、最近、私立の大学を誘致した成田市の例では、５０億円程度の税金が投入されたと報道されております。 　さらに、費用の面だけではなく、学校周辺への商業・娯楽施設等の誘致なども必要となります。 　このように、学校等の誘致については、様々な条件などをクリアしていく必要がご

	ざいますので、現時点においては、本市内に積極的に学校等を誘致するということについては考えておりません。 　ただし、今後、学校法人等からそのような相談があった場合には、前向きに検討していきたいと考えております。 　なお、本市の立地性を考えた場合、高速バスを使用することにより、対岸までの通学を視野に入れた選択もすることができることなどから、アクアラインを利用する高速バス等の交通利便性の向上にも力を入れているところでございますので、ご理解くださるようお願い致します。 　　この度は、貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。
意見 12	H28.9.16 高齢者見守りネットワークについて 【経緯】 　9/14（水）午後7時頃、交差点付近の歩道脇で座り込んでいる高齢の女性が、なかなか立ち上がれない様子だったので、私は気になって遠くからしばらく様子を見ていました。 　その歩道では、高校生を含めて多くの人が往復しているにもかかわらず、 全員がそのまま通過していたので、私から高齢の女性に声をかけたところ、「大分歩きすぎて足が痛く、動けないので休んでいる。自宅はここから５分程度のところにある」。救急車かタクシーを呼ぶか確認したところ、「大丈夫」とのこと。 　私はいったん帰宅し、自治会で配布された高齢者見守りネットワークのチラシに記載されていた高齢者支援課へ一部始終を電話連絡し状況確認をお願いした。 　現場は市役所から近く分かりやすい場所であったが、すぐには理解されず、また現場に向かうこと自体が即決できない様子で電話してから現場に向かう旨の返答があるまで10分程度は時間を要した。 　市職員が現場でかけつけたところ、すでに高齢の女性の姿はなかったが、もう少し現場周辺を確認し解散する旨の電話回答があった。 　（業務時間外にもかかわらず、対応をしていただいた職員の方ありがとうございました） 【意見・提言】 １　市職員による状況確認（人員）体制について 　高齢化に伴い、今後ますます高齢者の異変に係る事案が、時間帯・場所を問わず市内で発生すると思われる。 　警察、消防及び各事業者との連携も前提とはいえ、市役所が市民等からその旨の連絡を受けた場合、土日祝日、時間帯問わず対応できる状況確認（人員）体制があるのか。（そもそも、土日祝日や遅い時間帯に事案が発生した場合どこへ連絡すればよいのか） 　また、通常業務だけでも多忙な部署の職員が、現場の状況確認まで全て一手に引き受けて いるとすれば、過度な負担になると思うので、時間外等の状況確認については、他の部署からの応援人員も含め、（一定規模の人員で）当番制で行うのはどうか。 ２　若年層への高齢者見守りネットワークのPRについて 　上記経緯のとおり、（どのように声かけすればよいかわからず躊躇していたかもしれませんが）大人だけでなく高校生も高齢の女性に声をかけることなく通過していきました。

	本事案が発生した場所は小中高生の通学路ですが、本事案の時間帯は圧倒的に高校生が多い時間帯でした。（高校生なら高齢者の異変や高齢者見守りネットワークの趣旨・意義も把握できると思うので、 誰も声かけすることなく残念でした） そこで、若年層（特に高校生）に対して高齢者見守りネットワークの内容が記載されたホームページ（QR コードが印刷されたチラシ等の配布）やツイッターでの PR により、どのような時・場面で、どこへ連絡すべきか、あらかじめ携帯電話に必要な情報をダウンロード（保存）してもらうは どうでしょうか。若年層の街中での移動、登下校時の見守り意識の向上や迅速な状況確認へつながると思います。
回答	H28.10.12　担当課　高齢者支援課 日頃より、袖ケ浦市行政にご協力いただき厚く御礼申し上げます。 また、この度は、歩道脇で座り込んでいた高齢の女性へのお気遣いと市役所へご連絡をいただきましたことに対しまして、あらためて御礼を申し上げます。 ご意見をいただきました「高齢者見守りネットワーク」についてですが、本市では高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう、平成２４年度から事業所などの協力を得てスタートしております。この制度は、新聞や郵便物が溜まっている状態や、昼間でも雨戸が閉まっているなど、高齢者のご自宅におきまして普段とは異なる状況が見受けられた場合に、市がその方の安否を確認するというものです。その際には、担当課又は関係機関が保有している情報などを収集いたしまして、家族の方や親族の方に連絡するなどして状況を確認したり、場合によってはご家族の了解をいただき、屋内へ入り安否を確認するといったことを行っております。 今回ご連絡いただきました路上などで困っている方への対応につきましては、子どもから高齢者まで年齢や状況など様々な場合がございますが、土日祝日及び夜間におきましても、市役所へご連絡いただきましたら、日直職員又は守衛から担当部署へ連絡する体制をとっており、必要に応じて警察へ連絡するなど、関係機関とも連携・協力のもと対応させていただいております。 高齢化のさらなる進行に伴い、今後高齢者に係る事案が時間帯や場所を問わず増加してくるものと思われます。本市では、長浦地区及び平川地区にそれぞれ「地域包括支援サブセンター」を設置いたしまして、本庁を含む市内３ヶ所のうち最寄りの場所の担当職員と連携して迅速な対応に努めるとともに、引き続き関係部署や関係機関との連携を図ってまいりたいと考えております。 また、若年層への高齢者見守りネットワークのＰＲについてですが、現在市内小中学校におきまして、認知症の方を含む高齢者への理解を深めてもらうことを目的とした「認知症サポーター養成講座」を開催しております。この講座は、認知症の方と接する際の心構えや徘徊への対応などの教育とともに、高齢者が路上等で困っている場合の声掛けを含め、若年層へ高齢者にやさしい地域づくりの推進とＰＲを図っているものです。そのような機会を利用しまして、高齢者見守りネットワークのＰＲ及び市役所や警察への連絡方法の周知など、子どもの時期からの高齢者への見守り意識について、より一層の啓発に努めてまいりたいと考えます。 このたびは、貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

意見 13	H28.9.28 　袖ケ浦市が管理する袖ケ浦公園についてです。 　多分１０数年前から放し猫が居着きはじめたのではないか。無策なまま増え続け、居着く放し猫が１００匹以上になり、インターネット上で、猫ジャラ公園、猫ジャラ市と悪名高くなるまで放置していたことは、市の行政の長、担当課、市政をチェックすべき議会が揃って無能であったこと。特に、想像力・判断力・危機管理能力に欠けており、反省すべきと考えています。 　市長、担当課、議会それぞれに、 　⑴得られた教訓は何かお尋ねします。 　また、住宅地のなかにある市の公園（例えば久保田公園）において猫ジャラ公園の兆候があります。ノラ風のメス猫が飼い猫風のオス猫と繁殖期になると夜鳴きし交尾し、住民の敷地や物置などで毎年、出産しています。公園では放し猫が人が座るベンチに居座り、児童広場の砂場を汚しています。 　⑵市はこのように住宅地の中にある公園も猫ジャラ公園化して袖ケ浦市全体が猫ジャラ市化することを放置していいのか、猫嫌いの住民が放し猫に邪魔されずに生活する権利を守る気があるのか、また１０年後の袖ケ浦市の公園のイメージを想像してもらいたい。 　以上、市長、担当課、議会にお尋ねします。
回答	Ｈ28.10.25　担当課　都市整備課 　日頃より公園をご利用いただきありがとうございます。 　袖ケ浦公園の猫については、心無い飼い主等による遺棄により、１０年ほど前から増え始めました。市といたしましても、これ以上公園内の猫が増えないようボランティア団体の協力を得ながら、遺棄防止のパトロールや不妊去勢手術、里親会、啓発活動等行っており、公園内の猫は減少傾向にあります。 　また、公園内の猫は飼い猫に比べて寿命も短く、遺棄がなくなれば数年で大きく減少することが見込まれるため、今後も引き続き公園内のパトロール等の活動を実施してまいります。他の公園につきましても園内のパトロールを行うとともに、公園周辺で猫を飼っている方へ放し飼いをしないよう注意喚起する等、広報紙や回覧等を活用し、飼育マナーに関する周知を行ってまいりますので、ご理解くださいますようお願い致します。 　最後に、議会にお尋ねいただきました部分についてですが、「市民の声」制度が市民の皆様からの意見、提言、要望などを把握し、市政運営の参考に資することを目的としていることから、議員の政策や政治信条などに関わる個々の考えについて述べることは、制度の趣旨に鑑みまして適当ではないと考えておりますので、ご理解くださいますようお願い致します。